

財務概況

■ 業績の概要

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2020年度/2021年度増減比
売上収益	2,618	2,886	2,924	3,093	3,614	+16.8%
営業利益	607	620	775	983	1,032	+4.9%
当期利益(親会社の所有者帰属分)	503	515	597	754	805	+6.8%

(億円)

売上収益の状況

売上収益は、前期比521億円(16.8%)増加の3,614億円となりました。

■ 抗悪性腫瘍剤「オブジーボ点滴静注」

競合他社製品との競争が激化する一方、非小細胞肺がん一次治療や食道がん、胃がん一次治療における使用が拡大したことなどにより、前期比136億円(13.8%)増加の1,124億円となりました。

■ その他の主要新製品

糖尿病、慢性心不全および慢性腎臓病治療剤「フォシーガ錠」は367億円(前期比64.0%増)、2型糖尿病治療剤「グラクティブ錠」は245億円(同3.8%減)、関節リウマチ治療剤「オレンシア皮下注」は229億円(同4.5%増)、血液透析下の二次性副甲状腺機能亢進症治療剤「パーサビブ静注透析用」は89億円(同10.2%増)、多発性骨髄腫治療剤「カイプロリス点滴静注用」は84億円(同17.5%増)となりました。

■ 長期収載品

後発品使用促進策等の影響を受け、末梢循環障害改善剤「オパールモン錠」は47億円(前期比13.4%減)、アルツハイマー型認知症治療剤「リバスタッチパッチ」は29億円(同56.6%減)となりました。

■ ロイヤルティ・その他

前期比207億円(21.8%)増加の1,154億円となりました。

	2020年度	2021年度	前期比
製品商品	2,145	2,460	+14.6%
ロイヤルティ・その他	947	1,154	+21.8%

(億円)

損益の状況

営業利益は、前期比49億円(4.9%)増加の1,032億円となりました。

親会社の所有者に帰属する当期利益は、税引前当期利益の増加に伴い、前期比51億円(6.8%)増加の805億円となりました。

■ 売上原価

製品商品の売上が増加したことなどにより、前期比79億円(9.3%)増加の935億円となりました。

■ 研究開発費

研究に係る費用および提携企業との共同開発費用や治験薬準備費用が増加するとともに、開発化合物に係る無形資産の減損損失を計上したことなどにより、前期比135億円(21.6%)増加の759億円となりました。

■ 販売費及び一般管理費(研究開発費を除く)

新製品の上市および効能追加に係る費用、フォシーガ錠の売上拡大に伴うコ・プロモーション費用やIT・デジタル関連の情報基盤強化に伴う費用などが増加したことにより、前期比78億円(11.3%)増加の771億円となりました。

■ その他の収益

前期にロシュ社から抗PD-L1抗体関連特許に関するライセンス契約締結に伴う契約一時金を得ており、その反動などで前期比72億円減少の10億円となりました。

■ その他の費用

PD-1抗体関連特許に関する訴訟の和解に伴う解決金等50億円および京都大学への寄附金230億円と、すでに計上していた特許権等実施料引当金207億円との差額73億円を計上したことや、ブリストル・マイヤーズ スクイブ社とのオブジーボに係る提携契約に関連する費用を計上したことなどにより、前期比108億円増加の127億円となりました。

(億円)

	2020年度	2021年度	前期比
売上原価	856	935	+9.3%
研究開発費	624	759	+21.6%
販売費及び一般管理費	692	771	+11.3%

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、営業活動によるキャッシュ・フローが618億円の収入、投資活動によるキャッシュ・フローが60億円の収入、財務活動によるキャッシュ・フローが602億円の支出となったことなどにより、前連結会計年度末の610億円に比べて81億円増加の691億円となりました。

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度において営業活動によるキャッシュ・フローは、法人所得税等の支払額343億円や引当金の減少額207億円などがあった一方で、税引前当期利益1,050億円などがあった結果、618億円の収入となりました。

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度において投資活動によるキャッシュ・フローは、無形資産の取得による支出68億円や有形固定資産の取得による支出55億円などがあった一方で、投資の売却および償還による収入228億円などがあった結果、60億円の収入となりました。

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度において財務活動によるキャッシュ・フローは、自己株式の取得による支出300億円や配当金の支払額277億円などがあった結果、602億円の支出となりました。

(億円)

	2020年度	2021年度
営業活動によるキャッシュ・フロー	740	618
投資活動によるキャッシュ・フロー	△576	60
財務活動によるキャッシュ・フロー	△248	△602
現金及び現金同等物の期末残高	610	691

設備投資

当連結会計年度の設備投資につきましては、研究設備の増強・維持投資52億円、営業設備等の増強・維持投資29億円、生産設備の増強・維持投資12億円など、合計93億円の投資を実施しました。

当連結会計年度における重要な設備の除却または売却はありません。

今後の見通し

■ 売上収益

製品商品の売上は、当期比440億円(17.9%)増加の2,900億円を見込んでいます。主要新製品のうち、「オブジーボ点滴静注」は、競争環境が激化する一方で、非小細胞肺がん一次治療、胃がん一次治療、尿路上皮がんや原発不明がんなどでの使用拡大を見込んでおり、当期比426億円増加の1,550億円を予想しています。その他の主要新製品では、昨年、慢性腎臓病の効能が追加された「フォシーガ錠」が当期比103億円増加の470億円を見込んでおり、さらに「カイプロリス点滴静注用」「ベレキシブル錠」「オンジェンティス錠」などの売上拡大を見込んでいます。

また、ロイヤルティ・その他は、ロイヤルティ収入が引き続き伸長する見込みであり、当期比196億円(17.0%)増加の1,350億円を見込んでいます。

以上のことにより、売上収益は当期比636億円(17.6%)増加の4,250億円を予想しています。

■ 損益

売上原価は、製品商品の売上増加に伴い、当期比105億円(11.2%)増加の1,040億円を見込んでいます。

研究開発費は、最新技術やテーマを有する先端企業、アカデミアとの共同研究のさらなる拡大、グローバル開発試験、共同開発など、持続的成長の実現に向けて積極的な投資を行うため、当期比111億円(14.7%)増加の870億円を見込んでいます。

販売費及び一般管理費(研究開発費を除く)は、フォシーガ錠の売上拡大に伴うコ・プロモーション費用の増加や、IT・デジタル関連の情報基盤投資、米国などグローバル事業の強化に向けた投資を積極的に行うことにより、当期比109億円(14.2%)増加の880億円を見込んでいます。

その他の費用は、2022年3月期にPD-1抗体関連特許に関する訴訟に係る費用などを計上した反動もあり、当期比112億円減少の15億円を見込んでいます。

以上のことにより、営業利益は当期比418億円(40.5%)増加の1,450億円、親会社の所有者に帰属する当期利益は当期比295億円(36.6%)増加の1,100億円と予想しています。

(億円)

	2022年度(見込)	2021年度比
売上収益	4,250	+17.6%
製品商品	2,900	+17.9%
ロイヤルティ・その他	1,350	+17.0%
営業利益	1,450	+40.5%
当期利益(親会社の所有者帰属分)	1,100	+36.6%

(注)新型コロナウイルス感染症により、引き続き一定の活動制限が継続されることを想定していますが、業績に与える影響は軽微であると見込んでいます。今後、業績予想の修正が必要となった場合には、速やかに開示します。